

小学校の事例 ～みんなで支える学校安全～

- 通学路変更の背景
- 見守り活動の工夫
- 学校安全を支える仕組みづくり

 「無理なく続けるにはどうするか」を考えるヒントに

峰松 拓毅 氏

こんな悩みはありませんか？

- 旗当番や見守り活動の担い手が足りない
- 保護者の負担が大きく、継続が難しい
- 通学路に危険箇所はあるが改善が進まない
- 学校・PTA・地域の役割分担が曖昧
- 子どもたちの安全をどう守るべきか悩んでいる

私たちも同じ悩みを抱えていました。

大前提

通学路の安全は

- 学校だけの責任でも
- PTAだけの責任でも
- 地域だけの責任でもありません。

家から校門までの安全確保は、

 まず保護者の責任の範疇

であることが大前提です。

その上で、学校・地域・行政が協力して子どもたちの安全を支えています。

当初の考え方

危険だから

- 旗当番を増やそう
- 見守りを増やそう
- 保護者をお願いしよう



でも…

- 担い手不足
- 共働き家庭の増加
- 負担感の増大



 頑張る人を増やすだけでは限界がある

発想を変える

見守りを増やす前に

- 👉 そもそも負担を減らせないか？
- 👉 そもそも危険を減らせないか？

「人を増やす」から「仕組みを変える」へ
という視点で考えました。

仕組みを変える

小山小学校PTAで行ったこと

- 地区委員廃止
- 旗当番シフト作成の仕組み化
- 旗当番シフト作成ツールの外注
- 希望選択制への移行

「やらされる活動」



「参加できる活動」へ

保護者が選べる仕組み

従来

- 場所指定
- 日時指定
- 機械的割当



改善後

- 場所を選べる
- 日時を選べる
- 無理なく参加できる



できる人ができる時にできることを

旗当番の考え方を考える①

従来

「旗当番場所を設置したら毎日誰かが立たなければならない」という前提で考えていました。

そのため、

- 危険だと思う場所がある
- 立った方が良いと思う

↓

でも

- 毎日立てない
- 人が集まらない

↓

旗当番場所を増やせないという状況がありました。

旗当番の考え方を考える②

そこで、「毎日立たなくても良い」という考え方に変更しました。

結果として、

- 危険だと感じる場所に立てる
- 無理なく参加できる
- 新しい旗当番場所を追加できる

ようになりました。


結果

旗当番場所は増加



より多くの目で、より多くの場所を見守れるようになりました。



 安全性の向上にもつながりました

テクノロジーの活用

IoT見守りサービス「otta導入」

目的

- 保護者の安心感向上
- 見守り活動の補完
- 地域全体での見守り

保護者・地域・テクノロジーで支える仕組みづくり

学んだこと

見守りを増やすだけでなく

👉 テクノロジーで補うという

選択肢もある

通学路安全マップ

小山小学校PTAでは
「通学路安全マップ」を作成しました。


目的

- 危険箇所の共有
- 新入生保護者への周知
- 児童の安全意識向上
- 地域との情報共有
- 通学路合同点検結果の継承

「知っている人だけが知っている」から「みんなで共有する」へ

危険箇所を見える化する

安全対策は
危険箇所を改善すること
だけではありません。

 危険箇所を共有すること
も大切です。

見える化することで

- どこを見守るべきか
- どこを改善すべきか
- どこが危険なのか

を共有できるようになります。

危険そのものを減らす

見守りを増やす前に、危険箇所を減らせないか？

【ソフト対策】

- 見守り
- 交通安全教育
- 地域との連携

【ハード対策】

- 通学路変更
- 路面表示
- 安全施設整備

通学路変更の事例

実際に取り組んだこと

- 危険箇所の確認
- 保護者からの声
- 学校との協議

結果

👉 「危険箇所を避ける」
という選択肢も生まれました。

「指定通学路」は学校長により指定されます。

変更する合理的な理由があれば、変更することは可能です。

通学路の交通状況、児童生徒の状況、他の交通者の状況、を踏まえながら、子どもの安全と、持続可能な見守りが、共存する解を探していきます。

通学路合同点検

皆さんの学校でも活用できる仕組み

【通学路合同点検】

学校 + 教育委員会 + 道路管理者 + 警察

が連携して危険箇所を確認

保護者も

- 危険箇所の情報提供
 - 改善要望
 - 通学路合同点検の立ち合い
- という形で参加できます。

流山市の場合

- 2月頃 情報提供
- 5～6月頃 点検

という流れで実施されています。

危険箇所の情報提供は通年で受け付けてもらえる場合もあります。

PACNでも必要に応じて情報共有のお手伝いをしています。

学校安全を考える視点

安全対策には

【人】見守り・旗当番・地域ボランティア

【仕組み】役割分担・シフト作成・地区委員見直し

【技術】otta・デジタル活用

【情報】通学路安全マップ・通学路点検結果共有

【環境】通学路変更・合同点検・安全施設整備

があります。

どれか一つではなく

 組み合わせることが

大切です。

学んだこと

安全対策は
「善意を増やすこと」
だけではありません。

- 人による見守り
- 仕組み化
- テクノロジー活用
- 情報共有
- 環境改善

を組み合わせることが重要です。

参加者へのメッセージ

大切なのは「誰がやるか」だけでなく
「どうすれば危険を減らせるか」を考えること

そして、保護者・学校・地域・行政、が対話しながら
持続可能な学校安全を作ることだと思います。

持続可能な学校安全を作るためには
「誰かが頑張る」のではなく

 **「みんなで支える仕組みを作る」**

ことが大切だと思います。